

Global 30 Project Follow-up FY 2012

大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業 2012年度 フォローアップ

東京大学

副学長 羽田 正

目次

1. 取組状況

- ① 英語コースの開講状況
- ② 教育の質向上に向けた取組み
- ③ 海外からの学生確保に向けた取組み
- ④ 留学生受入のための環境整備
- ⑤ 海外拠点事務所における活動
- ⑥ 拠点大学の国際化とネットワーク形成

2. 本事業の成果

- ① 特筆すべき成果と波及効果
- ② 留学生の受入／派遣
- ③ 海外大学との連携／大学間交流協定
- ④ 英語コースの学生による評価(アンケート結果／学生の意見)

3. 経費の使用状況

4. 今後の課題と事業終了後の見通し

1. 取組状況

① 英語コースの開講状況 (G30)

- 2012年4月現在、G30英語コースとして14コースが開講しており、在籍者数は285人、うち留学生数は220人まで増加。
- 2012年10月、学内初の学部英語コース (PEAK) が2コース開講、海外11ヶ国から27人の学生が入学。これに伴い、G30英語コースは合計20コースとなっている。

研究科	英語コースの名称	学位	2011年10月		2012年4月	
			入学者数 ^{注2}	在籍学生数	入学者数	在籍学生数
教養学部	国際日本研究コース (2012年10月開講)	学士	-	-	-	-
	国際環境学コース (2012年10月開講)	学士	-	-	-	-
経済学研究科	経済学高度インターナショナルプログラム	博士	-	-	2 (2)	2 (2)
総合文化研究科	国際人材養成プログラム (2012年10月開講)	修士	-	-	-	-
		博士	-	-	-	-
	国際環境学プログラム (2012年10月開講)	修士	-	-	-	-
		博士	-	-	-	-
理学系研究科	理学系国際コース	修士	7 (7)	16 (14)	0	13 (11)
		博士	2 (2)	15 (14)	3 (3)	17 (16)
	最先端物理研究拠点における学位取得プログラム	博士	4 (4)	13 (13)	-	11 (11)
工学系研究科	国際バイオエンジニアリング英語コース	修士	3 (3)	4 (4)	0	4 (4)
	国際都市建築デザイン英語コース	修士	8 (8)	11 (11)	0	11 (11)
	国際技術経営学英語コース	修士	7 (7)	14 (14)	0	14 (14)
農学生命科学研究科	国際農業開発学コース	修士	4 (4)	7 (7)	0	7 (7)
医学系研究科	国際保健学コース	修士	0	24 (7)	20 (13)	44 (20)
		博士	2 (1)	14 (8)	13 (6)	52 (25)
新領域創成科学研究科	サステナビリティ学グローバル養成大学院プログラム ^{注1}	博士	2 (2)	8 (7)	3 (2)	11 (9)
情報理工学系研究科	情報理工学英語プログラム	修士	0	17 (17)	8 (8)	25 (25)
		博士	2 (2)	14 (14)	4 (4)	18 (18)
公共政策学教育部	公共政策学教育部国際プログラムコース	専門職	32 (28)	52 (46)	0	56 (47)
合計			73 (68)	209 (176)	53 (38)	285 (220)

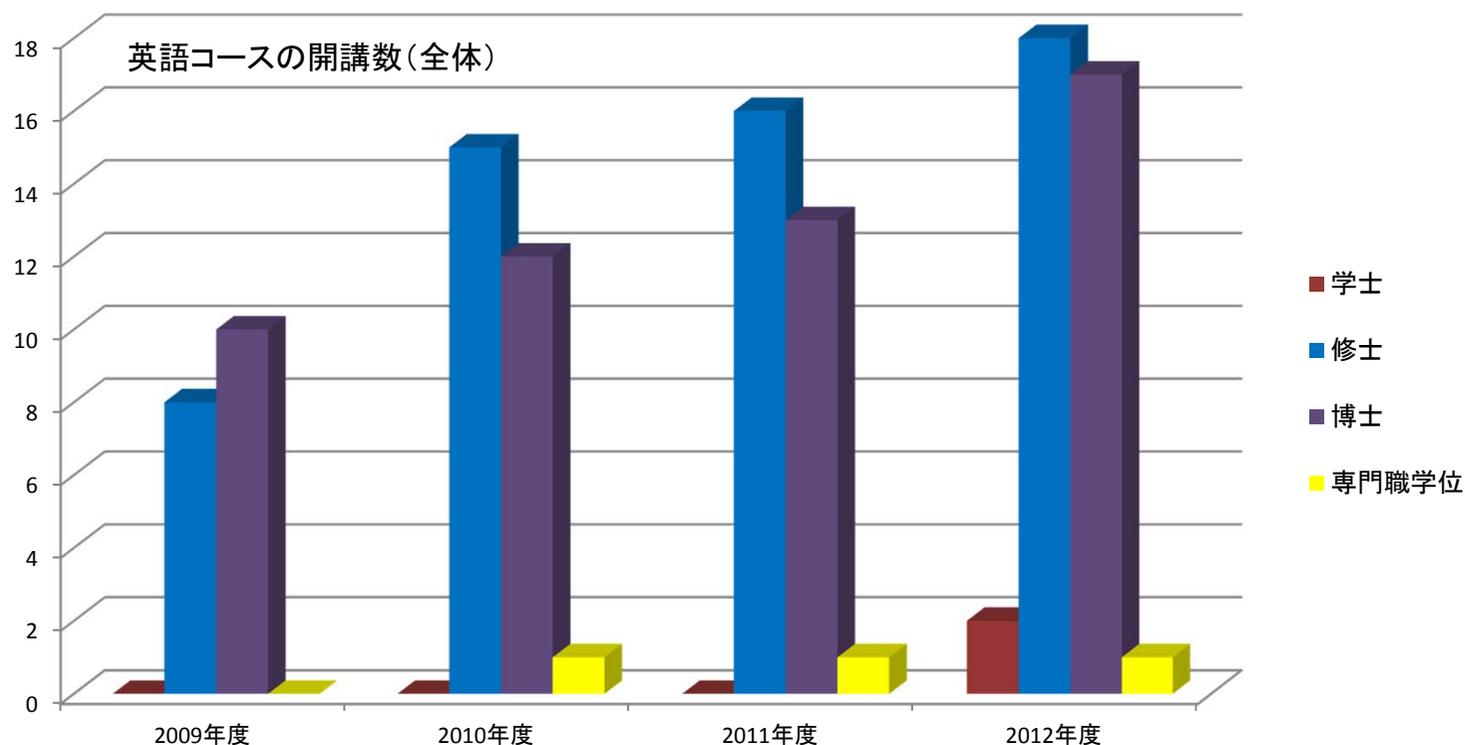
注1：2012年10月「サステナビリティ学教育プログラム」から移行

注2：括弧内は留学生数

1. 取組状況

① 英語コースの開講状況(全体)

- 英語コース全体では、2012年に新たに8コースが開講し、2012年10月現在で開講数は38コースまで増加。
- 2012年10月、G30プログラム以外でも国際農業開発学コース博士課程など英語コースが新規に開講。



1. 取組状況

① 英語コースの開講状況(一覧)

	開講部局	コース名	学士	修士	博士	専門職 学位	コース設置年
1	教養学部	国際日本研究コース	○				2012年10月
2	教養学部	国際環境学コース	○				2012年10月
3	経済学研究科	経済学高度インターナショナルプログラム		○			2010年4月
4	経済学研究科	経済学高度インターナショナルプログラム			○		2012年4月
5	総合文化研究科	国際人材養成プログラム		○			2012年10月
6	総合文化研究科	国際人材養成プログラム			○		2012年10月
7	総合文化研究科	国際環境学プログラム		○			2012年10月
8	総合文化研究科	国際環境学プログラム			○		2012年10月
9	理学系研究科	最先端物理研究拠点における学位取得プログラム			○		2006年10月
10	理学系研究科	理学系国際コース		○			2010年10月
11	理学系研究科	理学系国際コース			○		2010年10月
12	工学系研究科	英語による社会基盤学留学生教育特別プログラム		○			1982年10月
13	工学系研究科	英語による社会基盤学留学生教育特別プログラム			○		1982年10月

1. 取組状況

① 英語コースの開講状況(一覧)

	開講部局	コース名	学士	修士	博士	専門職 学位	コース設置年
14	工学系研究科	英語による学際デザイン留学生教育特別プログラム		○			1999年10月
15	工学系研究科	英語による学際デザイン留学生教育特別プログラム			○		1999年10月
16	工学系研究科	英語によるシステム創成学留学生教育特別プログラム		○			1989年10月
17	工学系研究科	英語によるシステム創成学留学生教育特別プログラム			○		1989年10月
18	工学系研究科	英語による都市工学留学生教育特別プログラム		○			1982年10月
19	工学系研究科	英語による都市工学留学生教育特別プログラム			○		1982年10月
20	工学系研究科	日中韓を中核とするアジア工学環形成のための特別推進プログラム			○		2008年10月
21	工学系研究科	国際バイオエンジニアリング英語コース		○			2010年10月
22	工学系研究科	国際都市建築デザイン英語コース		○			2010年10月
23	工学系研究科	国際技術経営学英語コース		○			2010年10月
24	工学系研究科	原子力国際専攻		○			2009年10月
25	工学系研究科	原子力国際専攻			○		2009年10月
26	農学生命科学研究科	国際農業開発学コース		○			2010年10月

1. 取組状況

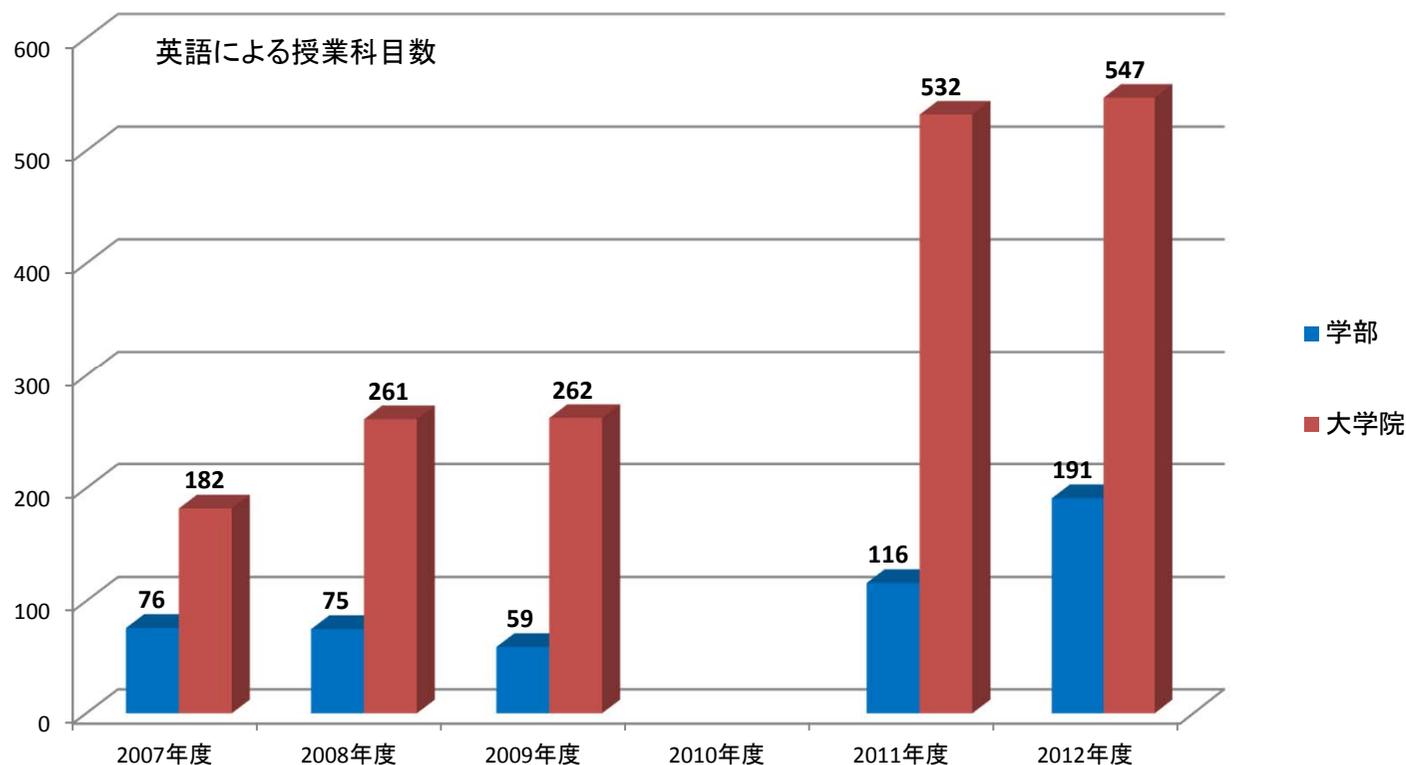
① 英語コースの開講状況(一覧)

	開講部局	コース名	学士	修士	博士	専門職 学位	コース設置年
27	農学生命科学研究科	国際農業開発学コース			○		2012年10月
28	医学系研究科	国際保健学コース		○			2011年4月
29	医学系研究科	国際保健学コース			○		2011年4月
30	新領域創成科学研究科	環境学研究系特別プログラム(アジア開発銀行関係)		○			2000年4月
31	新領域創成科学研究科	環境学研究系特別プログラム(アジア開発銀行関係)			○		2000年4月
32	新領域創成科学研究科	サステイナビリティ学グローバル養成大学院プログラム		○			2007年10月
33	新領域創成科学研究科	サステイナビリティ学グローバル養成大学院プログラム			○		2009年10月
34	情報理工学系研究科	情報理工学英語プログラム		○			2010年10月
35	情報理工学系研究科	情報理工学英語プログラム			○		2010年10月
36	学際情報学府	アジア情報社会コース(ITASIA)		○			2008年10月
37	学際情報学府	アジア情報社会コース(ITASIA)			○		2008年10月
38	公共政策学教育部	公共政策学教育部国際プログラムコース				○	2010年10月

1. 取組状況

① 英語コースの開講状況（英語による授業科目数）

- 英語による授業科目数は飛躍的に増加。
- 2012年10月現在、大学院における科目数は547科目、学部でも191科目となっており、合計738科目が英語で行われている。



注：東日本大震災の影響により、2010年度は未調査

1. 取組状況

② 教育の質向上に向けた取組み

● 新規コースの開講(2012年度)

- ✓ G30プログラムとして、学内初の学部英語コースであるPEAK(国際日本研究コース、国際環境学コース)を開講。
- ✓ 大学院レベルでは、国際環境学プログラムおよび国際人材養成プログラム(総合文化研究科)やG30プログラムで行われていた国際農業開発学コースが博士課程(農学生命科学研究科)を新たに開講。

● コース内容の拡充

- ✓ カリキュラム編成の工夫・見直しと英語による授業科目の拡大。
- ✓ 工学系研究科がソウル国立大学校工科大学、情報理工学系研究科は京都大学情報学研究科と、テレビ会議システムを用いた遠隔交換講義を実施。
- ✓ 医学系研究科では、国内外の研究者を招聘したセミナーや集中講義を実施。

● 教員向けの取組み

- ✓ PEAKでは英語コースの授業担当教員を対象にディスカッション形式のイベントを開催。また、PEAK担当教員向けに国内外の国際教育専門家による講演会を開催。

1. 取組状況

③ 海外からの学生確保に向けた取組み

- 英語コースの広報
 - ✓ PEAK広報活動として31ヶ国を訪問し、海外の進学校でプログラム紹介や模擬授業を行ったほか、FacebookやTwitterにより情報を広く提供。
- 入学試験の多様化
 - ✓ 渡日を必要としない書類審査や海外での英語面接を積極的に実施。
 - ✓ テレビ会議システムやSkypeを利用した入試面接を導入。
- 留学生受け入れシステム(T-cens)
 - ✓ 工学系研究科では、出願から審査、通知、来日に至る手続きを電子化した留学生受け入れシステム(T-cens)を構築。2011年度の利用者数は約550名。
 - ✓ 他大学・部局での利便性を高めるため、汎用版を構築中。推薦状のWeb上提出システムや検定料徴収機能システムなどの機能を追加。
- サマープログラムの実施
 - ✓ 理学系研究科では、海外の学部生を対象にした6週間のサマーインターンシッププログラム(UTRIP)を実施して、優秀な学生を確保。

1. 取組状況

④ 留学生受入のための環境整備

a. 生活支援

● PEAKの取組み

- ✓ キャンパスから徒歩5分の距離に寮を確保し、新入生がほぼ全員入寮。宿舎内には生活面のサポート等を行う大学院生がResident Assistant(男女2名ずつ計4名)として同居。
- ✓ 日本人学部生が登録してPEAK学生の生活をサポートするPEAK Friends制度を開始。200名を超える学生が応募。

● 国際センターの設置

- ✓ 出入国支援、宿舎紹介、経済支援、日本語教育、就職支援、カウンセリング等の統合的サービスを提供。
- ✓ 多文化メンタル支援として、異文化間カウンセラーを配置して留学生が直面する問題に英語で対応。

● 宿舎の計画的整備

- ✓ 全学ハウジングオフィスを立ち上げ、世界水準の宿舎を提供する体制を整備。
- ✓ 部局により、宿舎確保のための代理申請、留学生用の借上げ宿舎を設置して、家賃を一部負担する等の対応。

1. 取組状況

④ 留学生受入のための環境整備

b. 経済的支援

● 奨学金制度

- ✓ PEAK開講に伴い、優秀な学部生に対して4年間にわたり入学料と授業料相当額を支給する東京大学スカラーシップを新たに創設。
- ✓ 企業奨学金の獲得を進める等、留学生の経済的支援を拡充。

c. 学業面のサポート

● チューター制度

- ✓ 日本人学生や留学生によるチューター制度を導入。また、当該科目を履修済みの学生が授業の補習を行うなど、学生による支援体制を構築。
- ✓ オンライン・チューターガイダンスを開始して、担当チューターが渡日前から留学生と情報交換し、問題を共有。また、専門性の高い外国人教員あるいはそれに準じた日本人教員が学業・研究をサポート。

1. 取組状況

④ 留学生受入のための環境整備

d. 日本語・日本文化学習機会の提供

- ✓ 国際本部の下に日本語教育センターを設置して、定期開催の夏学期・冬学期コースに加えて短期コースも設けて、留学生の多様なニーズに対応。
- ✓ 2012年度には、日本語コース全体の設計を見直し、上級者向け日本語クラスを改訂するとともに、目的別の超短期コース(スポット講座)を開設。
- ✓ 入学前に早期に渡日する学生を対象に、定例コース前のプレコースも開設。
- ✓ 工学系研究科では、入学予定者の日本語能力を事前にWeb上で確認し、適正なクラス分けをする等のきめ細やかなサポートを提供。
- ✓ スタディツアーや社会見学を企画する等、留学生が日本社会や日本文化を体験できるイベントも実施。

e. 日本人との交流の推進

- ✓ 留学生と日本語話者(学内の学生並びに一般市民)との一対一の組み合わせを行うプログラム(FACEプログラム)で異文化交流を推進。
- ✓ 留学生と日本人学生の交流の場「インターナショナルフライデーラウンジ」提供。
- ✓ 学生サポートスタッフを起用して、オリエンテーション時の言語サポートや留学生向け情報誌作成等のピアサポートを実施。

1. 取組状況

④ 留学生受入のための環境整備

f. 卒業後の就業機会

● 就職情報の提供

- ✓ 国際センターから企業・団体からの就職情報をメールマガジンで発信。
- ✓ 就職活動セミナー(年8回)や会社説明会(年4回)を開催する等、留学生の就職活動を支援。
- ✓ 毎年、日本企業の参加による外国人留学生向けジョブ・フェアを開催。また、特に留学生の多い博士課程(ポスドクを含む)を対象とした就職説明会も、別途開催している。
- ✓ 工学系研究科および理学系研究科では、「キャリア支援オフィス」を設置して、経験豊富なキャリア相談員を配置。就職活動の流れやエントリーシート・面接対策など、就職活動に必要なノウハウを指導している。
- ✓ 情報理工学系研究科では、グローバルクリエイティブリーダー育成をめざして、企業で活躍する研究者から現場の話を聞く進路ガイダンスを開催。

1. 取組状況

⑤ 海外拠点事務所における活動

a. 東京大学インド事務所の開設

- 2012年1月、バンガロールに海外共同利用事務所を開設
- 2月に開所式を行い、日印ネットワークキングシンポジウムも開催。200名を超える来場者があった。
- 卒業生ネットワーク構築のため、校友会を立ち上げた。
- インド人留学生の受入促進とインドにおけるネットワーク構築を通じた日印学術交流、産学連携の推進に向け、有力高校や有力大学、現地企業の訪問等の活動を行っている。
- 日本留学に関する情報発信を積極的に行うほか、日本への留学希望者に対するワンストップサービスを提供。



b. 日本留学説明会の開催

- 2012年9月、日本留学説明会を開催し、グローバル30採択大学13大学が参加(3大学は資料による参加)。
- 300名を超える高校生・大学生が来場。Delhi Public School Bangalore South校等の名門高校からも教員引率により多数の生徒が参加。

1. 取組状況

⑥ 拠点大学の国際化とネットワーク形成

a. 大学の国際化

- 東京大学の行動シナリオにおける「グローバル・キャンパス形成」という目標に基づき、大学の国際化を最優先課題として進めている。
- 英語で学位を取得できるコースを開講して、留学生の受入を促進。特に、2012年10月に学内初の学部英語コース(PEAK)を開講。
- 大学間交流を拡大し、学生の海外留学を促進。
- サマープログラム等の短期留学制度を活用して、短期留学生の受入を促進。

b. 拠点大学とのネットワーク形成

- これまで独自に取り組んできた大学の国際化に向けた他大学との連携やネットワーク形成が促進。オールジャパンの体制が確立。

c. 産業界との連携

- 大学院プログラムとして産業界の協力を得てフィールドワークを実施したり、産業界とのパートナーシップによるインターンシッププログラムを拡充。
- 日本企業の参加を得て、外国人留学生向けジョブ・フェアを開催する等、産業界との連携による就職支援の枠組みを構築。

1. 取組状況

⑥ 拠点大学の国際化とネットワーク形成

d. 戦略的パートナーシップの形成

- 研究・教育諸分野において、海外の大学との協力・提携関係の一層の発展を目指して、より重点的に協力・提携関係を推進する戦略的パートナーシップ関係の構築を進めている。

e. 事務体制の国際化

- 国際対応力の高い職員の配置・採用や、事務職員の語学・国際業務研修や海外研修派遣等を実施している。
- 「事務組織の国際化対応WG検討結果報告書」(平成24年1月)を踏まえ、「人材育成国際環境整備検討WG」を設置し、学内の国際化について検討。

f. 評価の実施と改善

- 部局では内部・外部による英語コース評価制度を導入。有識者による評価委員会やアドバイザリー・ボードを設置して、コース運営の改善に努めている。特に、PEAKではコース開始後5年を目処に評価を実施する予定。
- 未実施の部局においても、有識者による評価検討システムの導入を検討中。

2. 本事業の成果

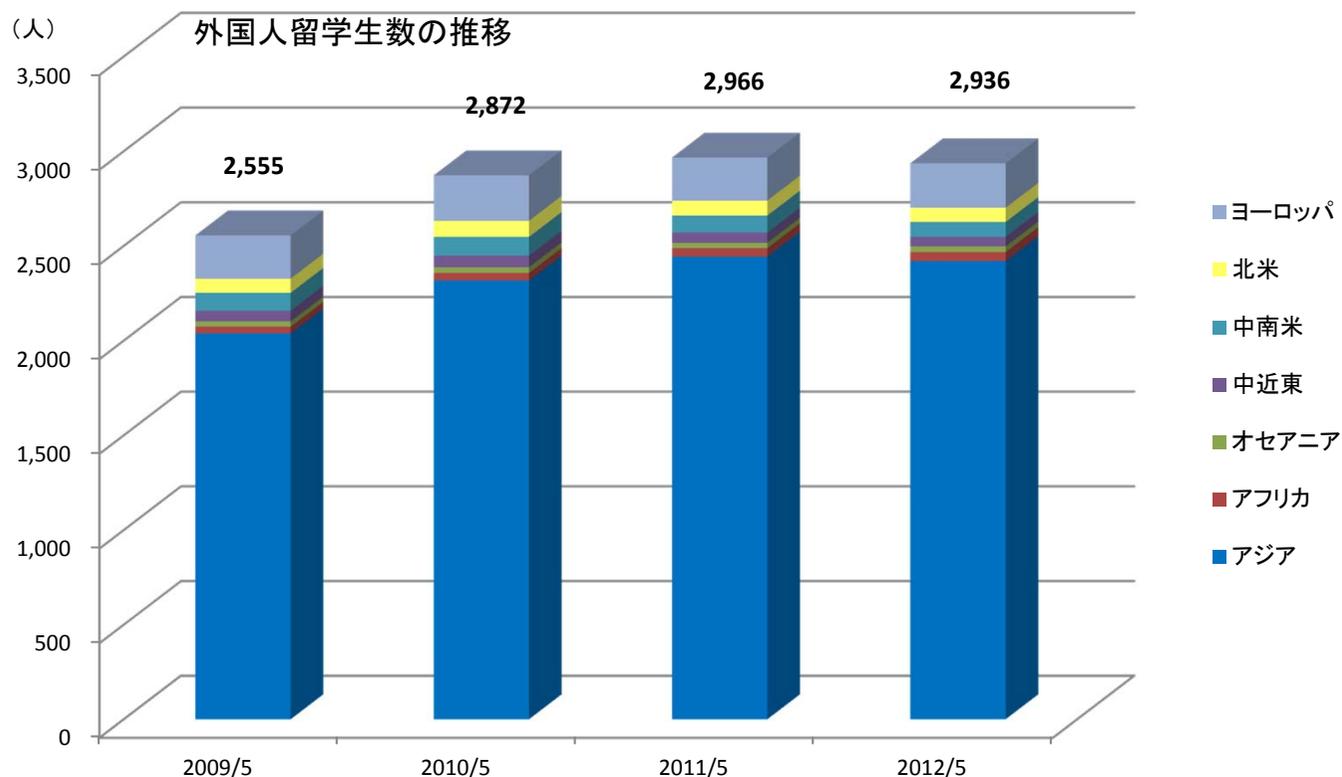
① 特筆すべき成果と波及効果

1. 学部英語コース (Programs in English at Komaba: PEAK) が開講
2. 英語コース開講数および英語による授業科目数の増加
3. 事務体制や学内文書英文化等の学内環境国際化への取組みの強化
4. 産業界との連携による留学生の就職支援取組みの強化

2. 本事業の成果

② 留学生の受入／派遣 — 受入 —

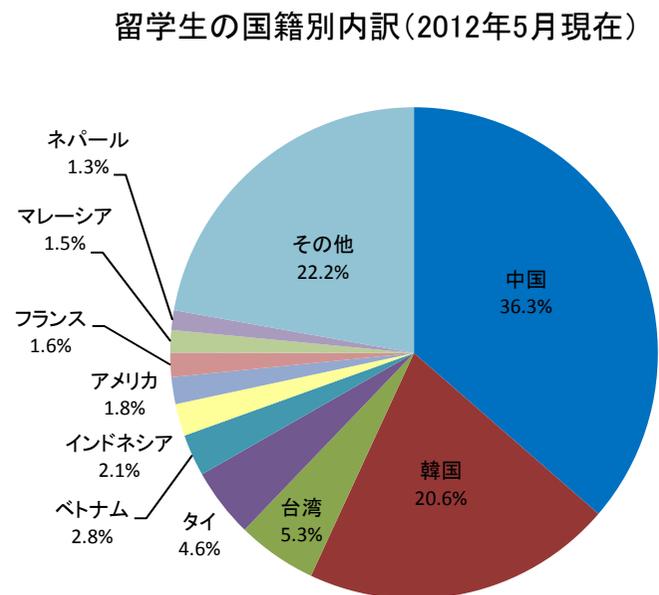
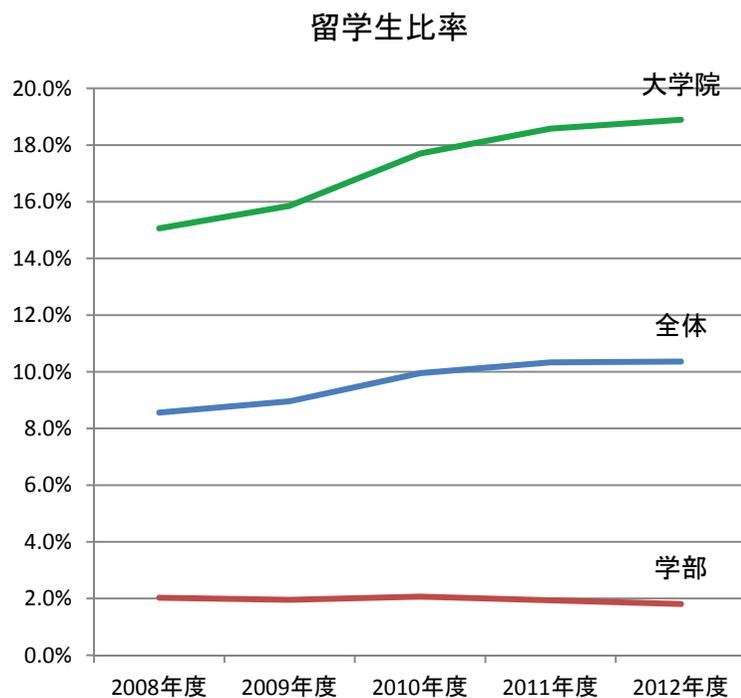
- 留学生の受入は2012年5月現在、2,936人まで増加。
- 2012年10月に学部英語コース(PEAK)を開設しており、今後も留学生の受入は拡大する見通し。



2. 本事業の成果

② 留学生の受入／派遣 — 受入 —

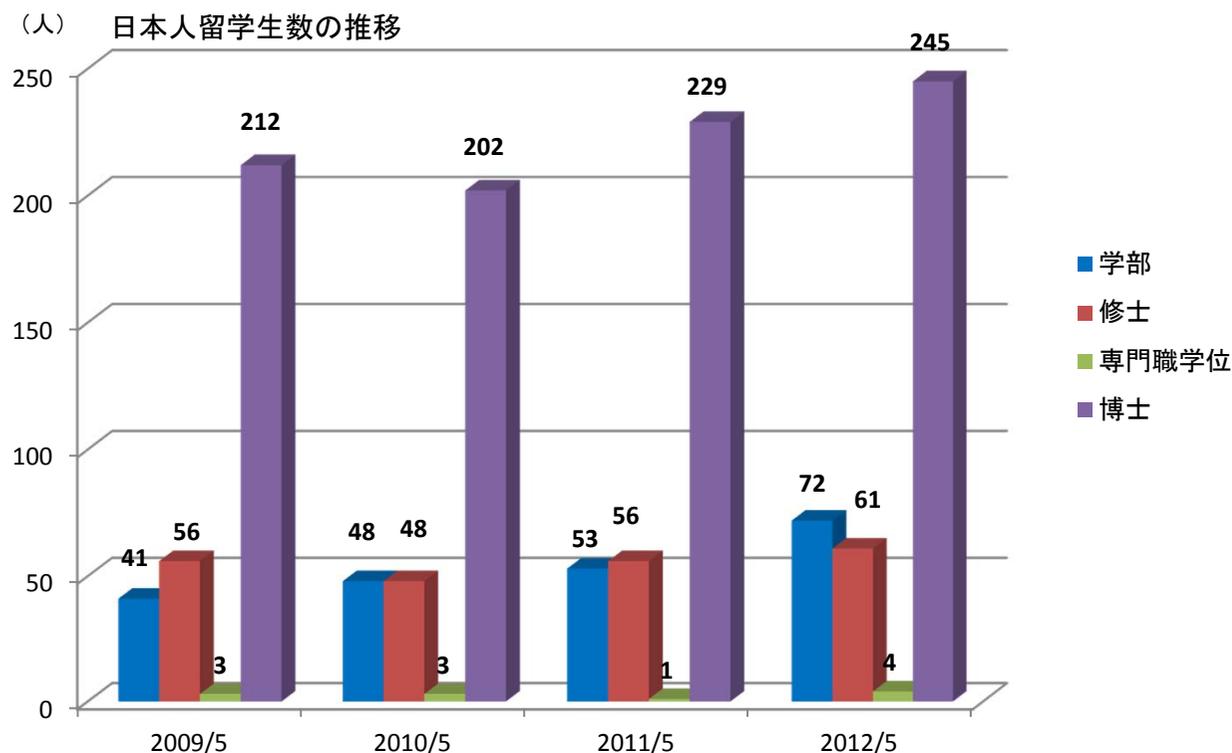
- 2012年度の全学生数に対する留学生比率は10%を超えており、特に、大学院レベルでは18.89%まで高まっている。
- 留学生の出身国・地域は、中国と韓国が半数以上を占め、台湾、タイ、ベトナム、インドネシアと続いている。



2. 本事業の成果

② 留学生の受入／派遣 ー派遣ー

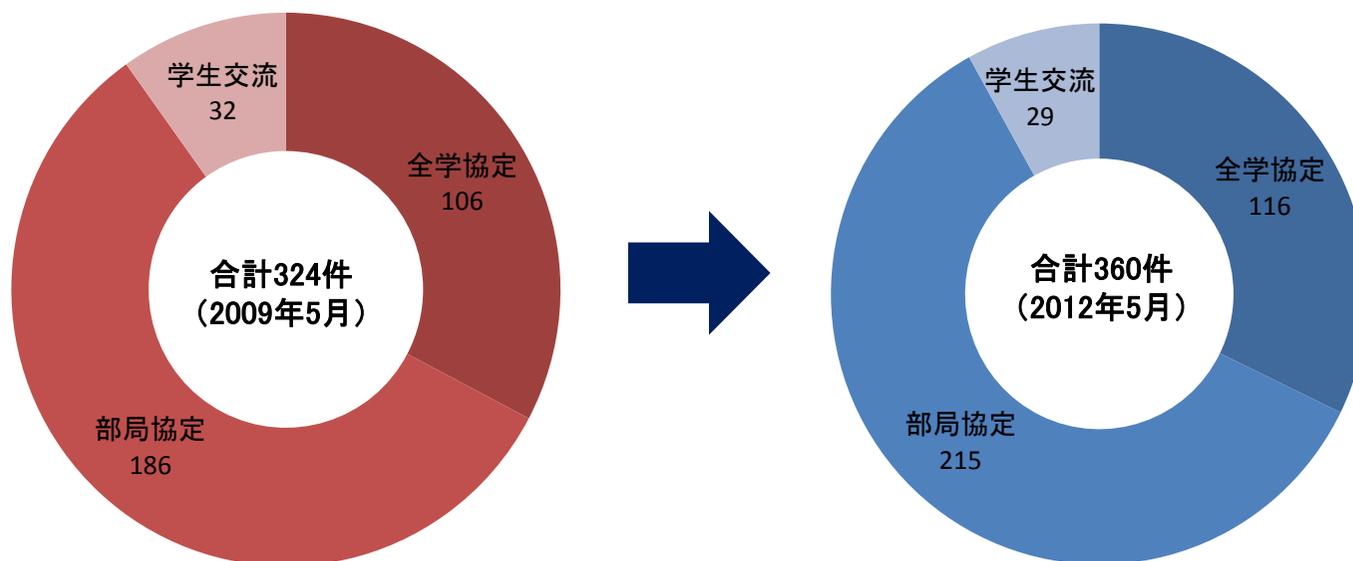
- 学生の海外留学促進に向けて、全学レベルまたは部局・研究科レベルでの学生交流を推進。
- 2012年5月現在、学則等に基づく留学者数は382人に増加。大学院生が多数を占めるなか、学部生留学者数も72人まで増えている。



2. 本事業の成果

③ 海外大学との連携／大学間交流協定

- 2009年5月には324件であった協定数は、2012年5月現在、延べ53ヶ国・地域、合計360件まで増加。

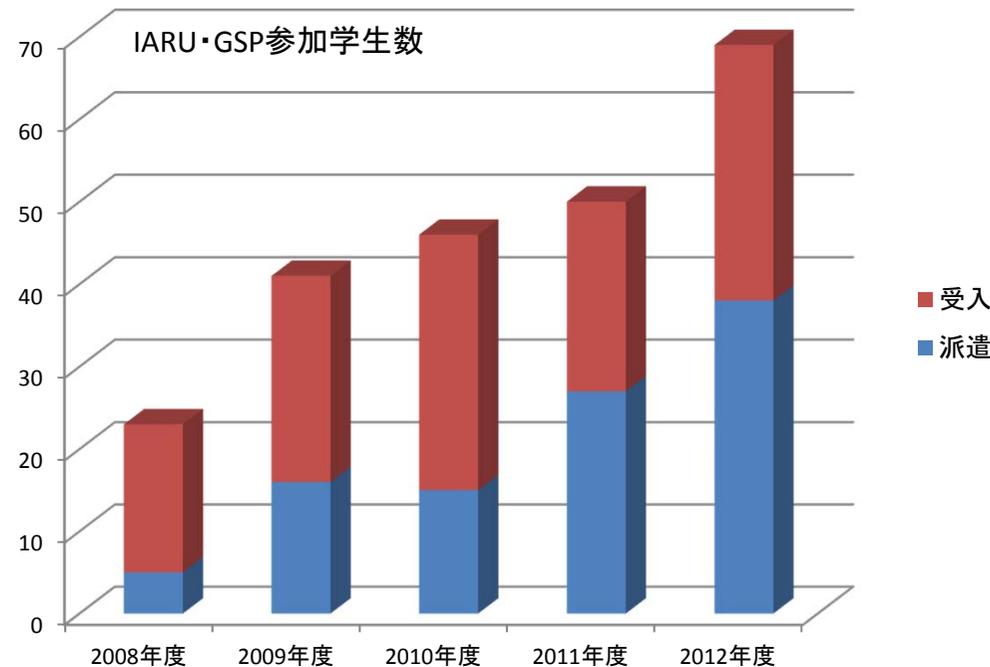


- 特に、全学レベルの学生交流協定校はイェール大学、ブリティッシュ・コロンビア大学、トロント大学、ケルン大学、エコール・ポリテクニク、ストックホルム王立工科大学、上海交通大学、浦項工科大学校、国立台湾大学、シンガポール国立大学など14大学であり、今後も増加する見込。

2. 本事業の成果

③ 海外大学との連携／大学間交流協定

- 国際研究型大学連合(IARU)、東アジア研究型大学協会(AEARU)、環太平洋大学協会(APRU)等の国際大学連合が実施する学生サマープログラムやイェール大学等海外の有力大学が実施する短期留学プログラムにより学生交流を促進。
- 特に、IARU加盟10大学が各校においてサマープログラムを実施し、2週間～5週間程度学生の派遣・受入を行うIARU学生サマープログラム(IARU Global Summer Program)による学生交流数が拡大。

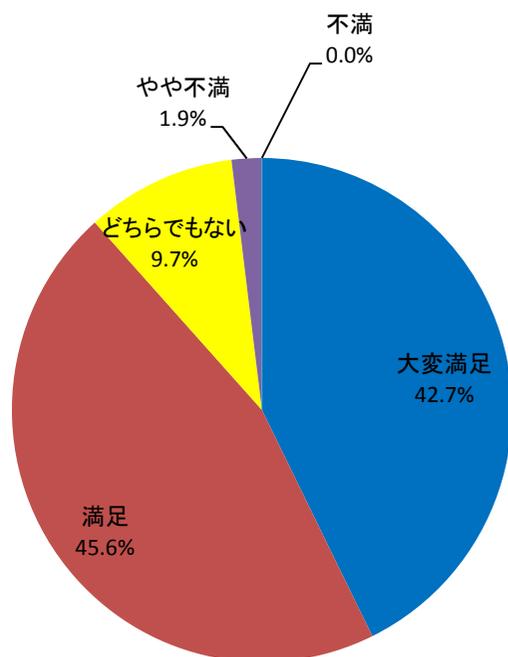


2. 本事業の成果

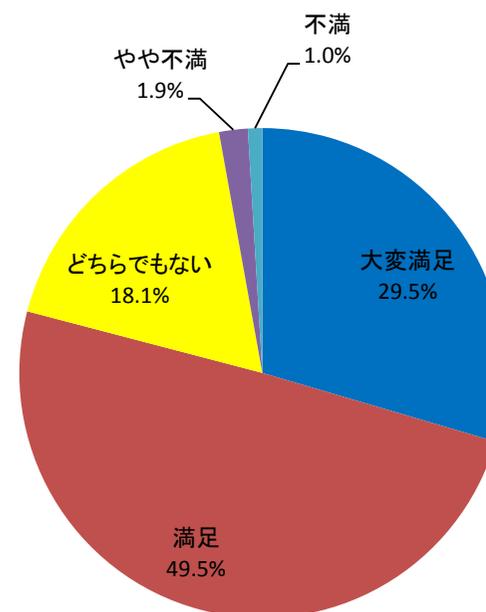
④ 英語コースの学生による評価(アンケート結果)

回答数:103

Q1. 東京大学に留学した全般的な印象を聞かせて下さい。



Q2. 留学中に受講した講義や研究の質・内容に満足していますか。

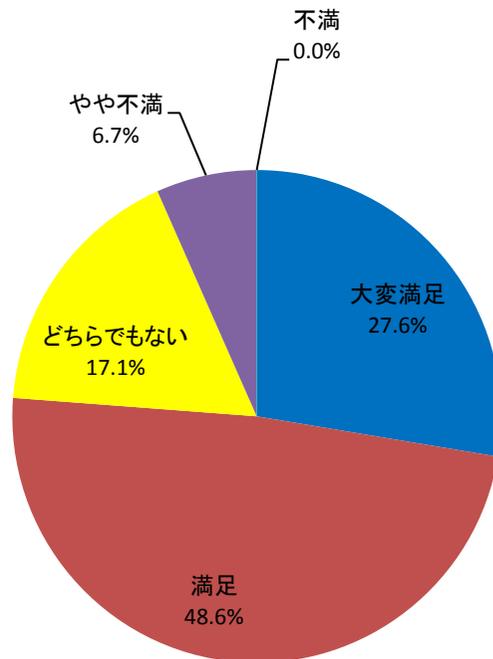


2. 本事業の成果

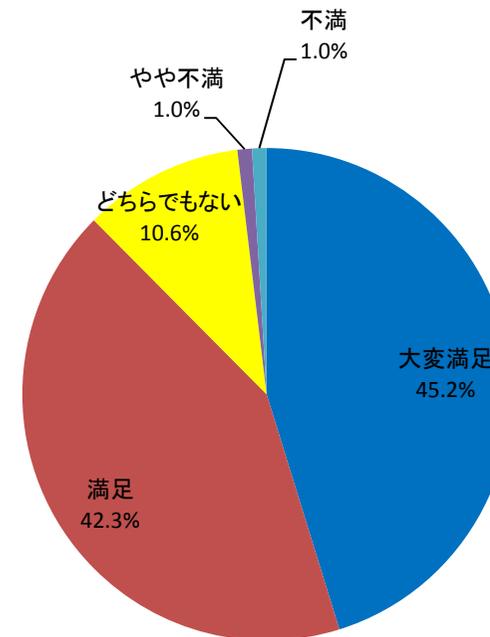
④ 英語コースの学生による評価(アンケート結果)

回答数: 103

Q3. 教員の英語力は十分でしたか。



Q4-1. 留学前の手続き、説明、案内は十分でしたか。

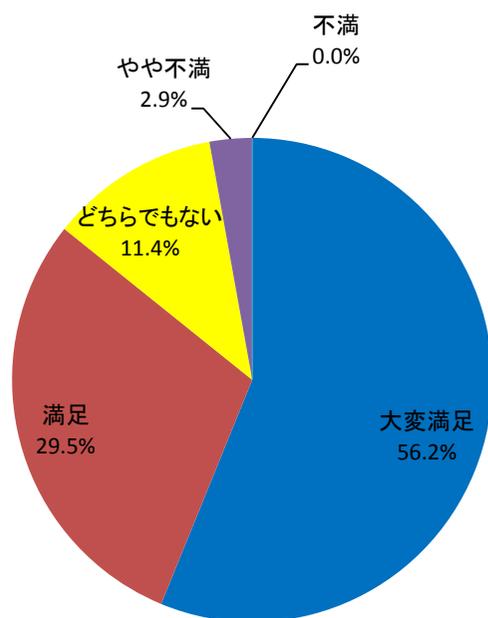


2. 本事業の成果

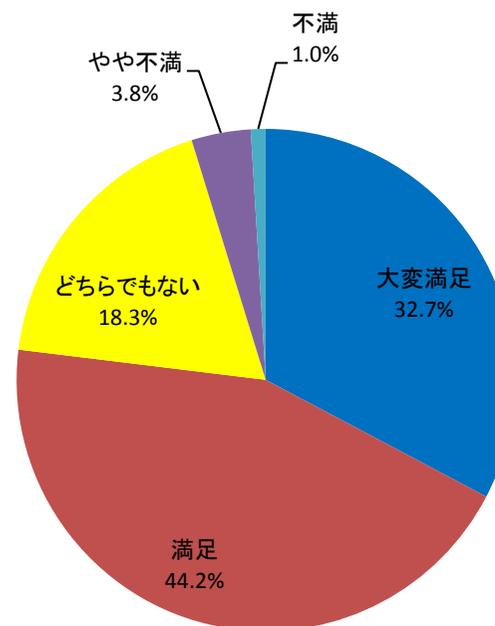
④ 英語コースの学生による評価(アンケート結果)

回答数: 103

Q4-2. 大学の施設、設備に満足していますか。



Q4-3. 授業・研究におけるサポートに満足していますか。

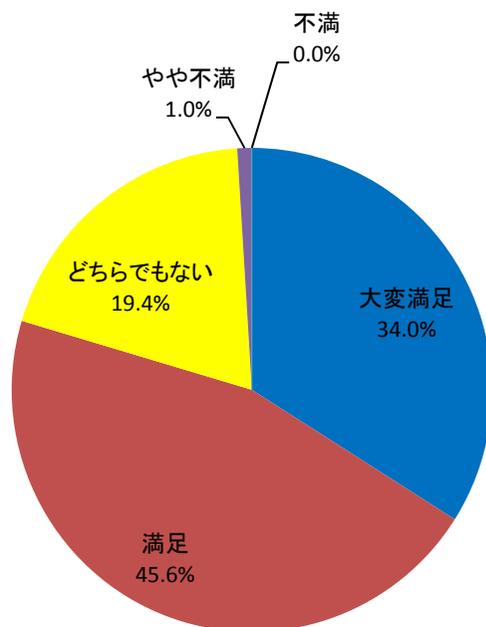


2. 本事業の成果

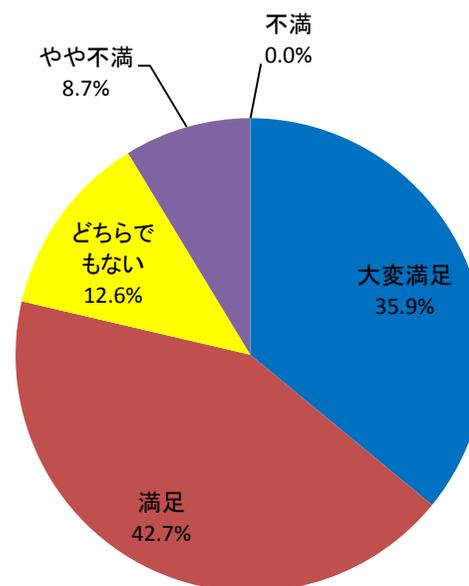
④ 英語コースの学生による評価(アンケート結果)

回答数: 103

Q4-4. 生活面のサポートに満足していますか。



Q4-5. 奨学金、資金面のサポートに満足していますか。

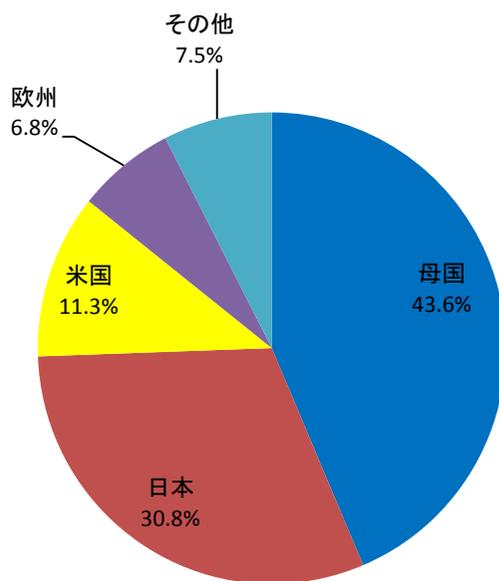


2. 本事業の成果

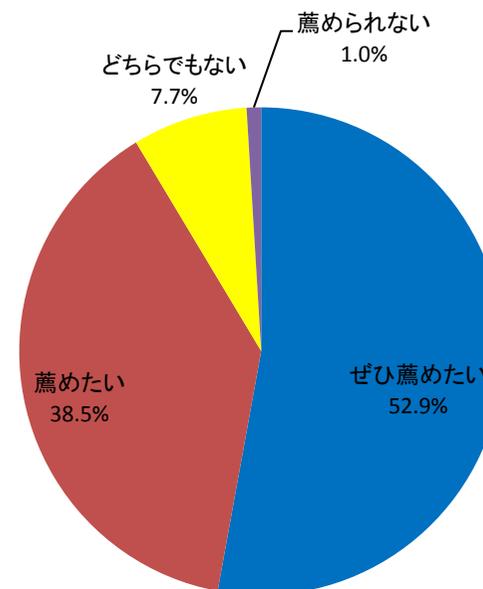
④ 英語コースの学生による評価(アンケート結果)

回答数: 103

Q5. 卒業後、どこの国に就職しますか。
(どこの国に就職したいですか。)



Q6. 母国の学生に東京大学への留学を
薦めたいですか。



2. 本事業の成果

④ 英語コースの学生による評価(学生の意見)



中国出身

情報理工学系研究科 博士課程

G30プログラムは、コース内容や教育面だけでなく、留学生の生活支援という意味でも、素晴らしいプログラムでした。

日本語能力に関係なく、著名な研究者や企業トップによるスピーチ・講義を英語で受講することができました。また、図書館には図書やデジタル教材が豊富でした。

一番楽しかったのは、情報理工学系研究科がスタディツアーを企画してくれて、日本の文化や生活を体験できたことです。今後、より多くの外国人が英語コースに入学して、日本で勉強と生活を楽しむことができることを願っています。



タイ出身

工学系研究科 修士課程

東京大学で勉強できたことは素晴らしい経験でした。たくさんの興味深い人々と出会い、彼らから多くを学び、大いに刺激を受けました。

大学では、常に、高いモチベーションを維持しなければなりませんでした。それが日本で勉強することの特色であり、魅力だと思います。

日本で就職活動をしてみると、日本語を流暢に話せないことが不利であることを痛感しましたが、工学系研究科が留学生向けに開講していた日本語コースがとても役に立ちました。

2. 本事業の成果

④ 英語コースの学生による評価(学生の意見)



ベトナム出身
公共政策学教育部
修士課程

受講科目が多岐に渡っていて、プログラム構成がよかったです。学生は、バックグラウンドや関心分野がそれぞれ異なっていましたが、好きなコースを選ぶことができました。

大学での手続きが複雑なこともありましたが、事務スタッフがとても親切に対応してくれました。東京大学での2年間の修士課程を終えて、とても満足しています。



ウクライナ出身
工学系研究科 修士課程

東大で楽しく勉強できました。自国で行っていた勉強と違って、東大では、デジタルシミュレーションを採用することが多く、それが私にとっては新鮮でした。結果的に、パラメータ設計に関心をもつようになり、研究を続けることにしました。

また、個人よりもチームで研究することが多いこともよいです。チームで協力することで、プロジェクトをさらに進展させることができ、また、お互い学ぶことが多かったです。



タイ出身
新領域創成科学研究科
修士課程

サステナビリティ学教育プログラムは学際的な研究を行っています。毎週行われるセミナーを通じて、教授や先生、一緒に勉強している仲間からシステムの考え方を学びました。

サステナビリティ教育プログラム(IPoS)やサステナビリティ学国際会議(ICSS)などに参加することができましたので、学外でも学ぶ機会に恵まれて、ネットワーキングにも役立ちました。

2. 本事業の成果

④ 英語コースの学生による評価(学生の意見)

英語コースの良かった点

教育面

- 学術面・研究面で素晴らしい内容だった。世界トップレベルのリサーチャーと競い合っている研究活動はやりがいがあった。(理学系)
- 講義は毎回興味深い内容で、最先端の知識を得ることができた。(情報理工)
- カリキュラム構成が自分の関心に合致しており、質の高い講義・クラスだった。(経済学)
- 世界的に著名なエコノミストによるプログラムは、非常に質の高い内容だった。(経済学)
- 教授の指導は丁寧かつ熱心で、英語力も高く、日本語が話せなくても問題なかった。(経済学)
- 世界各国の学生と交流・議論することで、自分自身の視野を広げることができた。(情報理工)
- 国際的・分野横断的な勉強をしたので、自国の医療問題に取り組むのに役立つ。(医学系)

生活面

- 奨学金情報、寮の空き状況、学外活動等の様々なサポートが得られて、留学生にとって居心地のよい環境を提供してくれた。(情報理工)
- アパートの紹介、賃貸契約、保証に至るまで、入居サポートが素晴らしかった。(情報理工)
- 同じプログラムの学生は奨学金を得ている人が多く、研究・学業に専念しつつ、日本文化・社会にも触れることができた。(公共政策)
- 研究室の設備が充実していた。G30プログラムからPCを貸与されてとても助かった(情報理工)

2. 本事業の成果

④ 英語コースの学生による評価（学生の意見）

英語コースの改善点

教育面

- 学内の研究者との交流や、海外の研究者にもっとG30プログラムに関わってほしい。
- プログラムを構成するクラス（授業）を多様化してほしい。
- リサーチペーパーのチェックやライティングスキル向上のサポートがあるとありがたい。

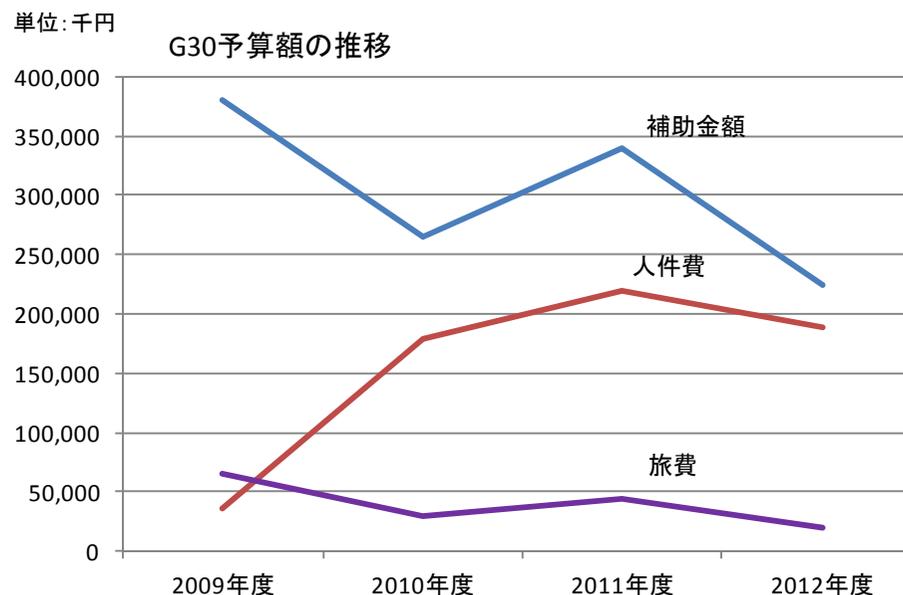
各種支援

- 東京大学による奨学金など、経済面の支援を充実してほしい。
- キャリアプランや就職活動、インターンシップに関するサポートがほしい。
- 教員の英語は流暢だったが、事務、書類、情報発信は日本語がほとんどだった。
- 入学直後、留学生向けのオリエンテーションや開講前の事前セッションがあるとよい。
- 学生の出身国をもっと多様化してほしい。
- 図書館に所蔵する英語の図書・教材を増やしてほしい。
- 日本人学生との交流機会を増やしてほしい。

3. 経費の使用状況

① 予算額の推移と使用実績

- 使用実績は下図の通りである。不足分については、大学経費を充当することにより、活動規模を維持している。



② 内部監査等の実施

- 毎年度、会計監査人による内部監査を実施し、適切な補助金執行を確認。また、四半期毎に部局に執行状況確認表、執行及び計画に係る経費の明細を提出させており、計画的な執行を確認している。

4. 今後の課題と事業終了後の見通し

① 今後の課題

- 英語コースの認知度向上と優秀かつ多様な学生確保に向けた取組みを継続していくとともに、奨学金等の経済的支援の拡充が喫緊の課題である。
- 特任教員の雇用継続については、財源の確保も含めて、事業終了後に向けて検討すべき課題。

② 事業終了後(2014年以降)の見通し

- 事業終了後も、文部科学省の他事業との連携、あるいは学内の予算を確保することにより英語コースの継続・拡充に注力していくが、財源確保に向けて一層の取組みが必要である。